緑の清流（上揚）

町民文芸

［短　歌］　米納　三雄 選

水嵩を増して津留川流れつつクレソン揺らす春はゆくなり　塚原　暁益
春来ると思えば雪降り夏日あり寒暖の日々老いは戸惑う　本田冨美子
紫に花咲き満ちし山藤を無情の雨は花房濡らす　松本ぬい子
厨より摘みきし木の芽香に立ちて春の息吹きに舌つづみ打つ　森田　房恵
心騒ぎして待つ人の便りなく郵便バイク今日も素通り　内田乃武子
庭草を取る手を止めて見上ぐれば「みな友達よ」と桜輝く　井上ユリ子
杏き日の亡夫と旅せし蝦夷地より移し植ゑたる鈴蘭は咲く　上村　かず
繰り返す寒暖の差に予報士も触れおり農作のこと取り上げて　吉永由紀子
リハビリをかけ声高く終へたれば春が来たねと療法師は言う　本田　隆章
鯉のぼり遥かに遠く一つ見ゆ少子化の影郷にも来しか　上村やす美
年頃の娘も孫も居ぬ吾が家手作りの雛まだ片付かず　内山タミエ
懐かない子猫も今は我が家族安堵したるか共に寝て居り　緒方　明美
艶やかに芽吹きて染まる柿の木に小鳥ら遊ぶさえずり高く　赤星　延子
降る雨に遠くに霞む天守閣舞い散る花を惜しむごと建つ　田添　徳子
九十九歳で逝きたる母の居し部屋に明治・大正・昭和が香る　渡辺　幸士

皆さんの作品をお待ちしております。
（町公民館事務局 ☎096-234-1111）

「若葉」

花は過ぎ若葉生き生き五月晴　福田　清子
親と子で眺める阿蘇は若葉道　布田　愛子
散歩道若葉の下で一休み　古閑チヨミ
鯉のぼり若葉に映える初節句　道上キヌ子

「耳」

ろばの耳如何なものかと気に懸る　内村　邦夫
にじり寄る話に耳をそばだてる　緒方　正堂

［川　柳］

補聴器が連れて来ましたホーホケキョ　北　仁子
地獄の使者が耳打ちをする水心　丸岡はる子
おねだりを耳に小声で孫の顔　緒方　瑞枝

「痛み」

納得が行かぬ言い訳胃が痛む　成松　松枝
陣痛を癒してくれる呱呱の声　坂口　政子
古傷が痛んで過去を懐かしむ　林　雅之
不器用に生きて腰痛だけ残る　渡辺　幸士

春暁を夫眠らせて厨事　本田サツ子
予後の身を庭の新緑に癒さるる　高田れい子
老いて尚なす事多し花は葉に　本田　信子
曇り日のさえずりの無き春の冷え　堀田　孝恵

［俳　句］

チクチクと右足痛む木の芽時　田端　慶子
若葉風肌に優しき散歩路　古田　幸子
山城の面影のこす花万朶　楠本　美鶴

ひとの動き（敬称略）

4月11日（日）～5月11日（月）

お誕生

住所	氏名	性別	保護者
上早川	古閑 章太（しょうた）	男	広憲
有安	白石 統万（とうま）	男	靖英
仁田子	山本 佳蓮（かれん）	女	徳雄
早川	藤本 莉菜（りな）	女	純哉
早川	岩﨑 日希（ひき）	男	進

ご結婚

	住所	氏名
夫	高知県	吉住 治樹
妻	仁田子	山本 佳奈

おくやみ

住所	氏名	年齢	世帯主
有安	澤田 淑子	78	太海
東寒野	大星 勝	86	功
西寒野	福田 幹夫	78	夕工
上早川	酒井 朝治	86	ミチ子
下横田	寺本 進	87	トシエ

〔町史編さんだより〕

甲佐の歴史を紡いで

～町史編さんだより(21)～

緑川絵図で読む甲佐町

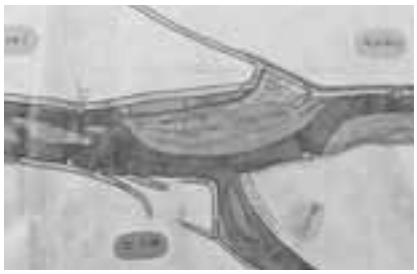
町史編集委員 鈴木 康夫（現代）

下の二枚の地図は、それぞれ江戸時代に作成された緑川絵図と現代の地形図です。場所は、津留川が緑川に合流するあたりです。右手の橋は日和瀬橋、左手の橋は中甲橋と地形図に記されています。

現代の地形図では、緑川の岸に近代土木工法による直線的で強固な堤防がつくられています。緑川絵図の時代においても、加藤清正によるとされる巧みな工法によって、川の流れが制御されているのが読み取れます。石を積み上げた堤防「糖（とも）」や「刎（はね）」が絵図に記され、それぞれの場所ごとにきちんとした役割を果たしています。

緑川絵図を見ると、糖は単なる堤防ではなくて、洪水時に勢いを増した河川を逆流させて力を弱める機能を発揮します。連続的でないとぎれとぎれの「くつわ糖」がそれです。

▼江戸時代に作成された緑川絵図



▼現代の甲佐町の地形図

また、川の流れの真ん中に「沈み糖」を造って中洲を人工的につくり、川の流れを二本に分けることもしています。おそらく筏や舟の運行を良好にする水路を確保することが背景にあったのでしょう。

刎にしても、水流を和らげ糖を護るだけでなく「千出（ほしだし）」という新たな耕地を砂礫を人工的に川岸に堆積させて造る、河川の流れを狭めて舟の運行に必要な水深を確保する、「渡し」のための船着場を確保するなどの機能を果たしています。

江戸時代と現代の甲佐町では、これら地図が物語るように、大きな地域変容をとげています。「大地に歴史が刻まれている」ことを過去の絵図は証明してくれています。両地図の約三百年の間に、どのような地域変容が起こっているか、大地にどのような歴史が刻まれているか、ぜひ判読にチャレンジしてみてください。

▼『甲佐町史』編さんに関するお問い合わせ先
町社会教育課町史編纂係
☎096-234-3310

編集後記

現代社会において、暮らしの中で欠かせないものとして急激なスピードで普及し、圧倒的な存在感を示すインターネット。

例えば選挙では、今夏の参院選から従来の選挙運動に加えて、ブログやメール、ツイッターといった新しいメディアでの運動の解禁について是非を問う審議が進むなど、社会は新しい世界観の下で変わり始めています。

巻頭でご紹介しました「高齢者ネット」も、新しい形での情報提供の方法に着手。携帯電話メールを活用して情報を配信して共有し、高齢者の安全・安心を見守る活動に取り組みます。

昨今の携帯電話は、高機能・多機能で使いこなせないとの声もよく聞こえてきますが、メールの登録という新しい形での地域への参画に挑戦してみるとともに、これを機会に、新しい世界観に触れてみませんか。（と）

DATA

平成22年4月30日現在

人口・世帯数		増減
男	5,366	4
女	6,130	10
計	11,496	14
世帯数	4,168	12